

1. 担当者向け視察・意見交換会

- 1) 日 時 令和5年7月12日(火)～13日(水)
- 2) 場 所 秋田港
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 21名
- 4) 内 容

受入準備状況視察(11日 14:30～15:15)

場 所：秋田港クルーズターミナル、クルーズ列車など

内 容：施設概要説明

説明者：秋田県

意見交換(11日 15:30～17:00)

場 所：ポートタワーセリオン2F会議室

司 会：東北地整

議 題：各県におけるクルーズ振興に関する取組や寄港観光事例照会
一般社団法人東北経済連合会におけるクルーズ誘致への取組

受入状況視察(12日 8:30～10:00)

場 所：クルーズターミナル

内 容：受入対応の概要説明及び視察

説明者：秋田県



視察・意見交換会の様子

2. 東北クルーズカンファレンス

- 1) 日 時 令和5年12月20日(水) 13:30~17:00
- 2) 会議方式 WEB会議方式
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 50名
- 4) 内 容

東北のクルーズ振興を目的として、コロナ禍における安心で安全な国際クルーズの再開に向け、クルーズ業界を取り巻く諸情勢やクルーズ船社や観光関係者による安全対策等について、講演及び意見交換等を行った。

はじめに、一般社団法人東北経済連合会小野常勤顧問が挨拶を行い、続いて、東北地方整備局港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室盛田室長より、国際クルーズの再開について説明した。

カンファレンスでは、寄港地に求められる観光コンテンツについて、ツアーオペレーターからの視点で株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル藤田クルーズ営業部長からご講演いただいた後、ラグジュアリー船への効果的なアプローチの仕方や国際クルーズが再開した現在のクルーズ船寄港状況などについて、意見交換等を行った。

最後に、東北地方整備局港湾空港部大亀計画企画官が挨拶を行い閉会した。

演題：『東北のクルーズ活性化と寄港地観光のヒント』

講師：株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
クルーズ営業部長 藤田 宗則 氏

要旨： 東北地域では、青森港、秋田港の寄港回数が多く、太平洋側では仙台塩釜港、宮古港の寄港回数が多い。今年度は初寄港の外国クルーズ船が多数あった。東北地域の現状として、各県で異なる歴史と文化、地元料理、夏祭り等の魅力がある一方、観光施設の整備と発掘、二次交通やガイドの不足、プロモーション不足等の課題もある。



求められる観光コンテンツは、そこにしかない歴史、経験、自然景観、地元の食事や酒、文化等であり、「売れるツアー」とするためには、テーマ・ストーリー性や、寄港地ツアーでないと体験できない特別感、地域の人と交流等が重要。特に中小型船は、寄港地観光を重視しており、寄港地での満足度がポイントとなる。また、準備したコンテンツを乗客へ届ける最大の要素は、通訳ガイドである。東北エリアでの専門性が高い通訳ガイドの発掘、育成、活用が不可欠。

今後も、日本を含む北アジアエリアへの配船は継続、増加傾向が予想さ

れている。寄港地ごとに異なる光るコンテンツが必ずある。いかにそこに気が付いて、人が訪問できるコンテンツとするか、隠れた宝石を探し出して磨けるかが重要。我々としても地域と一緒にになって取り組んでいきたい。



カンファレンスの様子